

5. 岐阜県関市小瀬の景観調査

京都府立大学文学部地理学研究室

2017年度より継続的に岐阜県関市小瀬地区（写真1）の景観調査を実施してきた。小瀬地区はまずもって「小瀬鵜飼」で有名で、鵜飼に関する技術や民俗については豊富な先行研究が存在する。今回は、そうした鵜飼が小瀬という地域のなかにどのように位置づいてきたのか、いかえると「小瀬らしさ」と鵜飼との関係といった点に焦点を当てて、文化的景観の視点を導入しつつ、調査を実施した。

調査参加者

上杉和央（教員）、小川大地、竹内祥一朗（以上、博士前期課程）、鈴木更紗（3回生）

調査内容

①小瀬の自然

自然条件について、長良川中流域という点を意識しつつ、地形環境や河川環境について調査を実施した。

②小瀬の歴史

史資料を用いて、小瀬の歴史の変遷の年表化を実施。また生業に大きく影響を与えた曾代用水と小瀬の関わりについて調査した。

③土地利用の変遷

絵図資料や近代地図・空中写真資料を用いて、土地利用の変遷を明らかにした。

④景観構成要素の調査

小瀬地区（北部）の寺社および石造物について、分布調査と碑文の翻刻をおこなった。

⑤生業の時空間サイクルの調査

小瀬の鵜飼および農業について、聞き取り調査をもとに、「いま」と「むかし」一聞き取り可能な昭和40年代頃を想定一のフェノロジーカレンダーを作成した。また、鵜匠の空間利用として、鵜匠家の屋敷地内の利用とその変化を調査した。



写真1 小瀬地区（ドローンにより撮影）

なおこれらの調査結果は、関市が刊行する調査報告書にまとめられる予定である。（上杉和央）